

函館えさん小と恵山中

取組充実へ校種間連携

合同スポーツフェスに一新

【函館発】函館市立えさん小学校（笹原史裕校長）と函館市立恵山中学校（黒田諭校長）は、地域の少子化が進む中で、教育活動の充実・発展に向けて校種間連携に力を注いでいる。本年度、運動会および体育祭

を「合同スポーツフェスティバル」として一新。5月30日にえさん小で開催し、共同種目のリレーでは児童生徒が力を合わせてゴールを目指した。

恵山地区は、平成の大合併によって函館市に編入合

併した土地の一つ。近年は少子高齢化のあおりを受け、人口減少が加速している。7年度と比べて、えさん小の児童数は8人減の26人、恵山中の生徒数は7人減の13人となった。

両校は児童生徒数の減少を喫緊の課題と捉え、効果的な学校行事の実施に向けて前年度から協議してきた。健康安全・体育的行事には「安全な行動や規律ある集団行動の体得」「責任感や連帯感の醸成」などに資する体験的な活動が求められる。児童生徒の資質・能力の向上に向け、運動会と体育祭の合同開催を計画した。

当日は天候に恵まれ、小学1年生から中学3年生までの児童生徒が顔を合わせ

た。子どもの勇姿を見届けようと、多くの保護者や地域住民らが駆け付けた。

各学年による個人種目、校種ごとの団体種目に加え、親子参加による「ボール運びリレー」や、PTA主催の「菓子取り競争」も展開。リレーのゴールテープを地域が持つなど、地域一体となって子どもたちの活躍を支えた。

最終種目の「全員リレー」は、小中学生が紅組と白組に分かれて実施。児童生徒一人ひとりが力を振り絞り、校種の垣根を越えてバトンをつないだ。

えさん小6年生の浜田竜桜さんは全員リレーを終えて「中学校の先輩たちが速かったので、やっぱり中学生はすごいなと思う」と憧れを抱いた。

両校は今後も学校行事の合同開催を継続する見通し。8月には学校運営協議会やPTAと連携し、小中合同による「磯遊び」を予定している。

児童生徒が協力してバトンをつないだ

